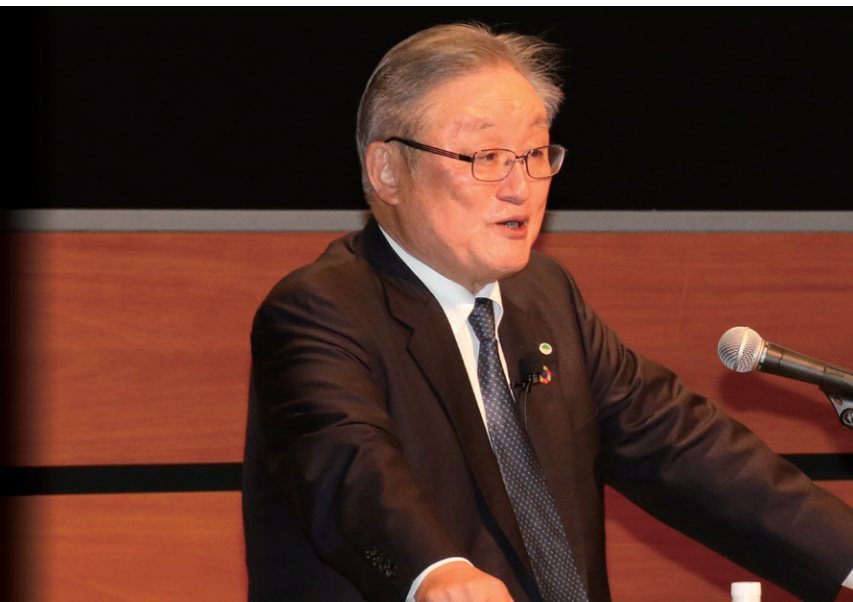




Keidanren Women's Executive Network

Leadership
Mentor
Program自分らしさを大切に、
自分らしいリーダーに

経団連女性エグゼクティブ・ネットワーク

第24回リーダーシップ・メンター・プログラム

2022年2月17日 東京・大手町 経団連会館

トップダウンとボトムアップの
両方が大切

大きな決断は徹底したトップダウンが必要だが、社員のやりがいを高めるためにはボトムアップが不可欠で、エンゲージメントが重要である。社員が業務のなかで社会への貢献を実感できれば、それは、日本や世界を変えていく大きな原動力となる。社員一人ひとりが、社会とのつながりを意識し、自分事ととらえることができれば、大きなことを実現できるのではないかな。

横並び文化をなくす意識が必要

この数年で社会課題も大きく変わり、1社では解決できない。社会イノベーション事業では企業や業界を超えた協創が必要だが、加速させるためには企業だけでなくNPOや市民も巻き込む必要がある。まさにダイバーシティ&インクルージョンである。

価値を創出していくためにはさまざまな国の文化の違いを理解しなければ、現地のお客さまに認められる価値を提供することができない。われわれはダイバーシティをもっと勉強する必要がある。多様な価値観を理

解し、それをビジネスモデルに変えていくためには強いリーダーシップが必要である。

世界中でさまざまなことが変化している今、ダイバーシティ&インクルージョンを理解するためには「地域」「時間」「人々が考える価値観」の三つの軸で考える必要がある。そして、日本の横並び文化をなくし、個々人が思う方向に進むべきだ。

リーダーとしてのあるべき姿

時代の流れや世の中の変化をとらえて、大きな方向を決めるのがトップの役割である。

それは、「未来のありたい姿」からバックキャストし、「現状」との溝を埋めるために組織に具体的な方向性や戦略を共有し、断固実行していくことだ。そのためには、「殻を破ること」「何のために生まれてきたのか、大義を考えること」「利他の精神を持つこと」が大切だ。

常に考えるべきことは、自分がもしトップであれば、どのような決断をするか。そして、経営者として思い切って行動していくべきだ。争うのではなく、日本や世界の将来を考えて補完し合う意識を持ってほしい。杓子定規にならず、自分らしさを大切に、自分らしいリーダーを目指してほしい。自分が覚悟を決めれば結果はついてくる。未来は、自分でつくるものだ。

Mentor Profile

東原 敏昭氏

(一社)日本経済団体連合会
副会長(株)日立製作所
取締役 代表執行役
執行役会長 兼 CEO

1977年4月 日立製作所入社
2007年4月 執行役常務
2008年4月 日立パワー
ヨーロッパ社プレジデント
2013年4月 執行役専務
2014年4月 代表執行役執行役
社長兼COO
2016年4月 取締役代表執行役
執行役社長兼CEO
2021年6月 取締役代表執行役
執行役会長兼CEO
2021年6月 経団連副会長

HITACHI
Inspire the Next